

持続可能な社会への貢献



Sustainable



恵和興業株式会社

Keiwa ism

わを広げ、和で満たす

それは、人をつなぎ、人を慈しみ、人を幸せにすること。

言葉にするのは簡単です。

しかし、それを成すのは容易なことではありません。

だからこそ、それをコーポレートスローガンとしました。

困難に立ち向かう人は、時として滑稽な様子に映ります。

それは、自分ではなく他人を中心に行動しているから。

合理性を欠き、論理的な考えよりも情熱が先行する行動。

だから滑稽で愚かしく映るのです。

でも、私たちは、それが素晴らしいと思っています。

困難に立ち向かい滑稽で愚かしいほど、情熱的でありたい。

不可能であることを、あたかも可能であるかが如く臨みたい。

Keiwa ism 「わを広げ、和で満たす」

和



代表取締役

菅川 慎太郎

1400年前

日本には、こんな言葉がありました。

「和を以て貴しと為す」

この言葉の示すところは、概ね次のような意味であると思います。

「争うことのないよう、皆で仲良くしなさい」

「上下の隔てなく議論して、良い選択をしなさい」

日常、ことさらにそれを意識することはありませんが、

私たちの心の奥底には

大河のごとく「和」の心がゆったりと、

そして確実に流れているのだと思います。

困ったときには、お互いに助け合い、不平不満を言うことなく

自分よりも他人(ひと)を思いやる心。

それは、1400年前から受け継がれた、

日本人の根幹を成す行いに他なりません。



Keiwa Story

再生の未来





私たちに少しだけ時間をください。

私たちが何を思い、何を考え、ここまで辿り着いたのか。

そして、これからどこに向かい、何を成そうとしているのか。

そのストーリーがここから始まります。

もしも廃棄物で困ったことがあれば、いつでもこれを開いて私たちにコンタクトしてください。

私たちのアドレスは、16ページと17ページにあります。

お客様にお会いできる日を楽しみにお待ちしております。

ケイワグループ 社員一同

終わりにから始める

最終処分場

それは、経済活動の終着駅

人々の繁栄を支えた「もの」が永遠に眠る場所

ここに来た「もの」は、二度と地上には戻らない

たとえ、まだ使える「エネルギー」が残っていたとしても

一の坂最終処分場が開設されたのは、1987年、昭和62年のことでした。

私たちは「終わり」から始めました。

やがて、それが「始まり」と確信しました。



■ 開業当時の施設概要
一の坂最終処分場(安定型) 福島市荒井字北一の坂3-1
埋立面積 25,000㎡
埋立容量 200,000㎡



2003年当時 一の坂最終処分場



処分場を管理する福島営業所(当時)

一の坂最終処分場



創業当時 笹川 満社長(前列中央)と社員

イデオロギーの激しい衝突

国家さえもマネーゲームに巻き込むヘッジファンド達
経済構造を激変させるIT革命
そして、1989年11月「ベルリンの壁」が崩壊
人々が荒れ狂う時代潮流に翻弄されながら
必死に生き抜いた時代
20世紀

激しく変化する時代潮流の中で
私たちは真っ直ぐに未来を見つめていました。
理想的な廃棄物処理とは？
進むべき道は何処にあるのか？
終わりから始めた私たち。
もう一度、道を切り開くことにしました。

分岐点

終わりから始めた私たちは、新たな道を探し続けていました。
消費によってもたらされる、大量の廃棄物を処理するには
埋め立てに依存する私たちのアプローチは、あまりにも脆弱でした。

毎日、毎日、大量の廃棄物を処分する私たちは、
この先に重大な分岐点があることを感じていました。

このまま埋め立てを続けるのか…

中間処理で再生を推進するのか…

全ての廃棄物を再生する技術など存在しない。
夢だけでは仕事はできない。
理想だけでは事業は成り立たない。

理想と現実の間で揺れ動く決断
刻々と迫り来る、選択の分岐点

私たちは、いったい何を選択すべきなのか



ケイワ・リサイクルセンター福島 建設工事の様子

再生に舵を切れ

長い間、模索の道を歩み続けた私たちは
ついに決断の時を迎えました。

1999年6月、私たちは廃棄物の再生に向けて
大きく舵を切りました。

小さな私たちにとっては、そのすべてが
大きな挑戦でした。

ケイワ・リサイクルセンター福島は
様々な状態で到着する廃棄物を
幾つもの工程で選別することにより

再生利用を進め

最終処分される廃棄物を最小限にとどめます。

初代 ケイワ・リサイクルセンター福島

私たちが満を持して開設した、初代ケイワ・リサイクルセンター福島。
老朽化に伴い、2021年に新生 ケイワ・リサイクルセンター福島に
その役割を引き継ぎました。



ケイワ・リサイクルセンター福島



振動スクリーン



二軸剪断機



手選別ライン



ロータリースクリーン



風力選別機 磁力選別機



木質チップヤード



目標リサイクル率

混合廃棄物ライン	木材チップ化ライン
80%	100%

●稼働期間/1999年～2021年

陰から支える

現代の社会インフラに欠かせない「コンクリート」
道路や橋、建物など、現代ではコンクリートが
欠かせない建設資材になっています。
構造物を強固に支えるコンクリートですが
これとて解体・廃棄の道を逃れることはできません。

2015年、私たちは高度成長期に整備された社会インフラの修繕や
建て替えが必要とされる時代に備えて、施設を一新しました。
コンクリート類を破碎し、路盤材等の再生資材を製造する
ケイワ・リサイクルセンター 仙台は、街から排出される廃棄物を
再生加工することで、社会インフラの構築と維持を陰から支え続けます。



一旦は廃棄されたコンクリートやアスファルトも、解体、選別、破碎というプロセスを経れば再生品として生まれ変わることができます。ケイワ・リサイクルセンター仙台では、446.4t/日の処理能力を有するクラッシャープラントで高品質の再生路盤材を製造しています。

抜け殻

経済の抜け殻とも言える廃棄物。

私たちの日常は、抜け殻たちの

「声なき声」と対話することから始まります。

色も形も様々で個性的な抜け殻たちは

それぞれに適した方法で再生する必要があります。

毎日、毎日、同じモノが二つとない個性的な

抜け殻たちを再生することは、毎日、毎日

新しいことに挑戦するのと同じようなことです。

再生とは、抜け殻たちと共に試行錯誤する

挑戦の連続です。

創りだすもの

私たちが手塩にかけてた抜け殻たちは

やがて「再生品」として社会に戻っていきます。

道路や橋、建物など、それらを支えるのは「再生」

によって再び生命を吹き込まれた抜け殻たちです。

どうか、道端に転がっている石ころを蹴らないでください。

なぜなら、もしかするとそれは

あなたの街の抜け殻かもしれません。

「再生」によって再び、あなたの街へ帰るのを

すこしの間、待ってあげてください。



ケイワ・リサイクルセンター仙台



がれき類



投入の様子



ハンマークラッシャー



振動スクリーン



生産ライン



再生品



出荷の様子



ストックヤード

究極

廃棄物処理における究極は廃棄物をゼロにすること。

つまり「始まり」はあるけど「終わり」がないこと。

資源の輪廻〈ゼロエミッション〉

長い間、選別・再生を続けてきた私たちには

超えることのできない壁がありました。

徹底した選別ゆえに必ず残るリサイクル不可能な

「選別残渣」【選別後に残る細かな砂状の廃棄物】

この壁を超えるべく、開発されたのが「造粒固化技術」です。

当社の造粒固化技術は、選別残渣を粒状に固化することで

土木資材として使用可能な「造粒石」を製造する特許技術です。

このブレイクスルーにより、廃棄物のリサイクル率は90%に達し

飛躍的な向上を果たしました。

2007年、私たちの「究極」を達成すべき旗艦工場として

「ケイワ・ゼロエミプラント仙台」を始動しました。

技術開発に終わりはありません。

これからも更なる「造粒技術」の発展と利用拡大を進めて

「究極の廃棄物処理」に挑み続けます。

目眩く生命

私たちの生活に欠かせないガソリンやプラスチックは、石油を原料としています。化石燃料と言われる石油は生き物としての役目を終えた恐竜などの死骸によって作られました。6600万年前に絶滅したとされる恐竜ですがその姿と役目を変えて今でも私たちの暮らしを支えているのです。

廃棄物も同じです。道路や橋、建物などの役目を終えただけで「無用」になったわけではありません。ケイワ・ゼロエミプラント仙台は再生が不可能とされた選別残渣を「特許技術」で再生することにより廃棄物に新たな「役目」を与えて人々の暮らしを支え続けます。

造粒石

「ぞうりゅうせき」

厳しい基準に基づいて製造・管理されており、様々な用途に安心してご利用いただけます。

■造粒石を使用した道路のイメージモデル

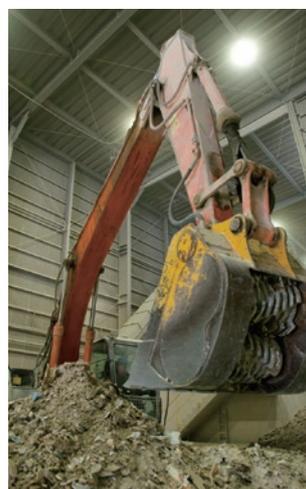


ケイワ・ゼロエミプラント仙台

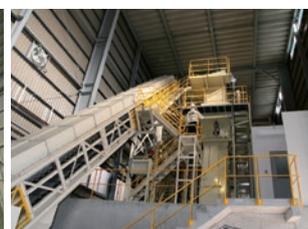
リサイクルが極めて困難で、長年の課題となっていた選別残渣。当社は、この難問を解決するために東北大学大学院工学研究科との共同研究を重ねた結果、選別残渣を原料とする土木資材「造粒石」を製造する特許技術の開発に成功しました。ケイワ・ゼロエミプラント仙台は、この革新的技術によってリサイクル率の飛躍的な向上を達成しました。



ケイワ・ゼロエミプラント仙台



混合廃棄物



風力・振動スクリーン



手選別ライン



比重差選別機



造粒機



ハンマークラッシャー



廃棄物から作られた造粒石



製品の研究開発

つながりが「輪」を再生する

全ての人々、全ての物質は、同じひとつの物から生まれました。

あらゆるものは、ひとつでもあり、その集まり(和)でもあります。

和は縁を生み、縁は輪を生みます。

絆 チャリティー コンサートは、「わを広げ、和で満たす」私たちの強い思い。

これからも、無限大に広がる人々の可能性を信じて

つながりの輪を広げ続けたいと思っております。

絆

2017



2017 檜葉チャリティーコンサート

浄財の負託先

- 2017年度 11月 仙台市(仙台ふるさと応援寄付)
- 12月 檜葉町
- 2018年度 12月 児童養護施設(仙台市内)
日本赤十字社宮城県支部
檜葉町
- 1月 児童養護施設(仙台市内)
仙台市(仙台ふるさと応援寄付)
福島市
- 2019年度 12月 日本赤十字社宮城県支部(台風第19号復興支援)
- 2021年度 12月 宮城県(新型コロナウイルス感染症対策支援)
- 2022年度 11月 日本赤十字社宮城県支部(新型コロナ医療従事者支援)
- 2023年度 12月 日本赤十字社宮城県支部(7月豪雨災害義援金)
- 2024年度 12月 日本赤十字社宮城県支部(能登半島大雨災害義援金)

合計金額 8,425,580 円

皆様の温かいご支援に感謝申し上げます。

2018



2018 仙台 Xmasチャリティーコンサート

2018



2018 檜葉チャリティーコンサート

2019



2019 檜葉チャリティーコンサート

ケイワ・ゼロエミプラントならば

平成29年5月

福島県双葉郡楡葉町大字山田岡字仲丸1-35

この地に私たちの「ケイワ・ゼロエミプラントならば」は、誕生いたしました。
震災によって発生した大量の災害廃棄物を「造粒技術」で再生します。
私たちのミッションが地域復興の一助となるなら幸いです。

為すべきことを為す

そこに赴く私たちに
何か特別な思いがあったわけではない。
ただ、私たちにできることをする。
「為すべきことを為す」それだけだった。
失敗もあった。
苦労もあった。
「為すべきことを為す」
それが私たちに、唯一できることだった。



宮城県災害廃棄物処理業務 [気仙沼ブロック(南三陸処理区)]

造粒前処理施設・造粒施設の運営管理業務で清水建設JVに協力

私たちが開発した「造粒石」製造技術をベースに
2012年、宮城県から災害廃棄物処理業務を受託した
清水建設JVと、これを応用した技術開発に取り組み
「焼却主灰・脱水ケーキ・不燃残渣」の再生技術へと
昇華させる事で、61,000tもの製品を製造し、2013年
にその任務を終えました。

製造された「造粒石」は、南三陸町復興の礎として工
事に活用され、私たちの思いもそこに刻むことができま
した。



ケイワ・ゼロエミプラントならば



ケイワ・ゼロエミプラントならば



粗選別・破砕ヤード



選別・破砕ライン



振動篩い機



風力選別機



造粒機



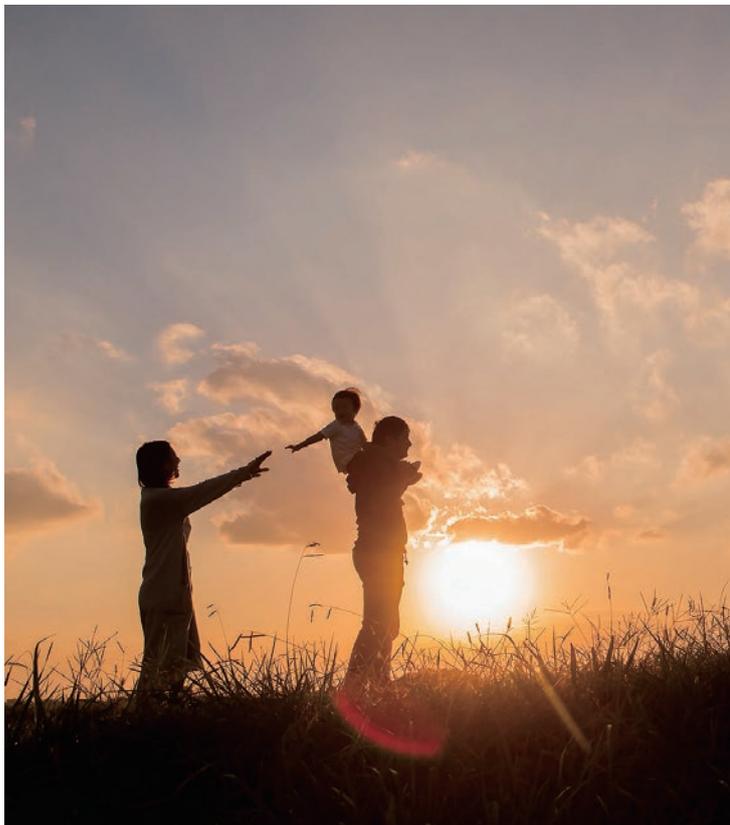
造粒石ストックヤード

明日を織る

Regeneration Recycle Center Fukushima

人々が紡ぐ再生の糸を丁寧に織り上げるのが私たちの仕事。
持続可能な社会を目指して再生の明日を織りなすのが
私たちの成すべきこと。

新しいケイワ・リサイクルセンター福島は、私たちの20余年に
わたる経験が蓄積された《現場力》で再生する工場です。
建屋も設備も一新しましたが、私たちの志は今も変わりません。
不要になったモノを、もう一度、社会の役に立てたい。
資源を無駄にすることなく、もう一度、社会に還元したい。
そんな人々の思いを受け継ぎ、「廃棄物を活かす」ことが
「ケイワ・リサイクルセンター福島」のミッションです。



Regeneration／リジェネレーション(再生)とは、Sustainable／サステイナブル(持続可能)の先を目指した積極的な思考・行動の概念。



新生 ケイワ・リサイクルセンター福島



工場内部



二軸破砕機



機械式選別機



手選別ライン



ジョークラッシャー



ストックヤード建屋



粉塵防止タイプストックヤード



事務棟



工場外観

■ 恵和興業株式会社



〒981-3224 宮城県仙台市泉区西田中宇杭城山55-6
TEL.022-347-9961
E-mail keiwa.zs@keiwa.be

■ ケイワ・リサイクルセンター福島

[中間処理場]



〒960-2156 福島県福島市荒井字北一の坂3-1
TEL.024-593-1451
E-mail keiwa.rf@keiwa.be

施設概要

許可番号 福島市許可第12420045090号
敷地面積 21,361㎡
処理形態 複合処理(建設混合廃棄物の選別破碎+木くずチップ化プラント)
処理能力 破碎104.14t/日、選別破碎79.20t/日、破碎(がれき類)300t/日、木くず80.0t/日
許可品目 がれき類、木くず、紙くず、繊維くず、金属くず、廃プラスチック類、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず

■ ケイワ・ゼロエミプラント仙台

[中間処理場・造粒プラント]



〒981-3224 宮城県仙台市泉区西田中宇杭城山55-6
TEL.022-347-9961
E-mail keiwa.zs@keiwa.be

施設概要

許可番号 仙台市許可第05420045090号
敷地面積 8,400㎡
処理形態 複合処理(混合廃棄物の破碎選別+造粒プラント)
処理能力 破碎(選別・造粒工程を含む)150.3t/日
許可品目 がれき類、木くず、紙くず、繊維くず、金属くず、廃プラスチック類、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず
古物商許可 宮城県 第221010001233号

会社概要

商号 恵和興業株式会社
設立 昭和52年4月14日
資本金 1,000万円
売上高 3,466百万円(2023年度 グループ全体)
従業員数 131名(2024年4月 グループ全体)
事業内容 1:産業廃棄物中間処理場の運営業務
2:産業廃棄物の収集運搬業務
3:リサイクル技術の研究開発業務
4:再生路盤材の製造・販売
5:解体工事の管理・施工、ほか
6:放射能・線の測定並びに除染に関する業務、ほか
取引銀行 常陽銀行 福島支店、三菱UFJ銀行 仙台支店、七十七銀行 名掛丁支店、東邦銀行 方木田支店、みずほ銀行 福島支店、福島銀行 福島西支店、福島信用金庫 西支店

■ ケイワ・リサイクルセンター仙台

[中間処理場]



〒981-3224 宮城県仙台市泉区西田中宇杭城山47-1
TEL.022-347-9961
E-mail keiwa.zs@keiwa.be

施設概要

許可番号 仙台市許可第05420045090号
敷地面積 8,300㎡
処理形態 破碎プラント
処理能力 破碎446.4t/日
許可品目 がれき類

■ ケイワ・ゼロエミプラントならは

[震災廃棄物リサイクルプラント]



〒979-0513 福島県双葉郡楡葉町大字山田岡字仲丸1-35
TEL.0240-23-6089
E-mail keiwa.zn@keiwa.be

施設概要

許可番号 福島県許可第00720045090号
敷地面積 7,299㎡
処理形態 建設混合廃棄物の選別・破碎・造粒処理
処理能力 破碎614.22t/日、選別・破碎289.20t/日、造粒固化141.17t/日
許可品目 がれき類、廃プラスチック類、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず、金属くず、木くず、紙くず、繊維くず、燃え殻、ばいじん、汚泥

けいわ株式会社 (グループ企業)



〒960-1107 福島県福島市上鳥渡字しのぶ台4-6
TEL.024-593-5456
E-mail keiwa.s@keiwa.be

株式会社 竹内建設 (グループ企業)



平塚リサイクルセンター(中間処理場)

株式会社 竹内建設(平塚リサイクルセンター)
〒254-0021 神奈川県平塚市長瀬1-14
TEL 0463-25-0600
ホームページ www.take-ken.com

中井リサイクルセンター
〒259-0151 神奈川県足柄上郡中井町井ノ口1203-2
TEL 0465-81-5344

株式会社ジー・エス・ピー (グループ企業)



〒965-0089 福島県会津若松市神指町東城戸216番地
TEL.0242-22-2929
ホームページ http://www.gspaizu.jp

会津工場フェニックス
〒969-6131 福島県大沼郡会津美里町大石字東左下り1186番地
TEL.0242-57-1111

ケイワ・エコグリーン株式会社 (グループ企業)



〒963-0921 福島県郡山市西田町鬼生田字大谷地410-1
TEL.024-981-0531
E-mail keiwa.ecogreen@keiwa.be

会社概要

商号 ケイワ・エコグリーン株式会社
資本金 1,000万円
事業内容 産業廃棄物の収集運搬業(積替え保管)
許可品目 がれき類、木くず、紙くず、繊維くず、金属くず、廃プラスチック類、
ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず、ゴムくず、燃え殻、
汚泥、鉱さい、ばいじん
積替え保管 郡山市
運搬許可 福島県(特管含む)、宮城県、仙台市(特管)、茨城県、山形県
栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県
古物商許可 福島県 第251300000528号

会社概要

商号 株式会社 竹内建設
資本金 500万円
許可番号 【処 分】神奈川県 第01424003939号
【収集・積替え】神奈川県 第01413003939号
【特 管 物】神奈川県 第01453003939号
【収集運搬】静岡県 第02201003939号
東京都 第13-00-003939号
千葉県 第01200003939号
栃木県 第00900003939号
山梨県 第01900003939号
業務内容 産業廃棄物収集運搬業・積替え保管業
【取扱品目】廃プラスチック類、金属くず、ゴムくず、がれき類、
廃油、燃え殻、汚泥、ガラスくず・コンクリートくず及び
陶磁器くず、木くず、紙くず、繊維くず、動植物性残渣
産業廃棄物中間処理業
【取扱品目】廃プラスチック類、金属くず、ゴムくず、がれき類、
ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず、木くず、
紙くず、繊維くず
解体工事業
登録番号:神奈川県知事(登-3)第2464号

会社概要

商号 株式会社ジー・エス・ピー
資本金 1,200万円
許可番号 【一般廃棄物収集運搬】
会津若松市指令 廃 第623号-2
会津美里町指令 第219号
【産業廃棄物収集運搬】
福島県 第00704006187号
【特 管 物】
福島県 第00754006187号
事業内容 一般廃棄物・産業廃棄物の収集運搬業
【取扱品目】燃え殻、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プ
ラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、動植
物性残渣、ゴムくず、金属くず、ガラスくず・コ
ンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類
【特 管 物】廃油、廃アルカリ、感染性産業廃棄物
ペットボトルのリサイクル業

NEXT KEIWA

そして次のケイワへ。

Keiwa ism

■社是

恐れず

驕らず

侮らず

●経営理念

日本の発展に貢献できる人材を創出する

当社は、30年以上にわたり廃棄物処理を事業の柱としてきました。価値あるもの(=資源)を取り出すのは人の目と手作業を中心にしており、ITの高度化による大幅な省力化や効率向上を次々に達成している現代社会にあっても、廃棄物処理事業はマンパワーの重要度が非常に高い分野となっております。

私たちは、知恵と工夫と「為すべきを為す」の心で子供たちの未来を守り、日本の経済成長、そして持続性の高い環境整備に貢献できる人材の創出に全力を尽くします。

●行動目標

地域に寄り添った持続性の高い
サービスを提供する

●価値観

- 一期一会。ご縁に感謝。
- 念ずれば花ひらく。
- 試行錯誤、まずはやってみよう。

●コーポレートスローガン

わを広げ、和で満たす

ケイワの歩み

1977	福島県福島市に誠和興業株式会社を設立
1982	しのぶ台団地の造成・販売(福島県福島市上島渡)
1986	
1984	社名を恵和興業株式会社に変更
1987	産業廃棄物安定型最終処分場開設(福島県福島市荒井)産業廃棄物収集運搬業務許可取得
1999	産業廃棄物リサイクルプラント(福島県福島市荒井)「ケイワ・リサイクルセンター福島」開設
2001	産業廃棄物リサイクルプラント(宮城県仙台市泉区)「ケイワ・リサイクルセンター仙台」開設
2006	ケイワ・エコグリーン株式会社を設立
2007	産業廃棄物リサイクルプラント(宮城県仙台市泉区)「ケイワ・ゼロエミプラント仙台」開設
2011	本社を「ケイワ・ゼロエミプラント仙台」内に移転
2012	宮城県災害廃棄物処理業務〈気仙沼ブロック(南三陸処理区)〉において、清水建設JV 造粒前処理施設・造粒施設の運営管理業務を受託
2013	〈気仙沼ブロック(南三陸処理区)〉受託業務完了 造粒処理により61,000tの復興資材を製造
2014	安定型最終処分場の埋立処分終了
2015	「ケイワ・リサイクルセンター仙台」リニューアルオープン 「事業統括本部」社屋新築移転
2017	ケイワ・エネルギーステーション仙台開設 ケイワ・ゼロエミプラントならは開設
2020	仙台本社新社屋落成 株式会社竹内建設を完全子会社化
2021	新 ケイワ・リサイクルセンター福島 稼働
2022	安定型最終処分場を廃止 ケイワ・エコグリーン株式会社本社 新社屋落成
2024	ケイワ・エネルギーステーション仙台廃止 ケイワ・ゼロエミプラントならは 圧縮梱包施設の廃止
2025	株式会社ジー・エス・ビーを完全子会社化 リガーレ仙台株式会社と資本提携

未来を築く

私たちには、未来を予測することはできない。

なぜなら、未来には無限の可能性があるから。

だからこそ、未来には価値がある。

私たちのすべきことは、未来を予測することではなく、
価値ある未来を築くために、今日に全力を尽くすこと。

未来は来るものではなく、私たちが築くもの。

NEXT KEIWA 「持続可能な社会への貢献」



知財情報

■取得特許

※2024年10月時点 恵和興業株式会社取得特許

- 特許第 6053004 号 石膏ボード廃材から再利用可能な造粒物を製造する方法
- 特許第 6200179 号 廃棄物から再利用可能な造粒物を製造するための混合原料(清水建設株式会社と共同)
- 特許第 6211937 号 木質系廃棄物からの再利用可能な造粒物
- 特許第 6283203 号 放射性廃棄物から放射能を低減した造粒再生砕石の製造方法
- 特許第 6523142 号 既成灰造粒物及びこの造粒物を用いた路盤材または盛土材
- 特許第 6560379 号 トリウムまたはウランを含む自然起源放射性物質を含有する残渣を含む土壌から再利用可能な造粒再生砕石を製造する方法(株式会社スリー・アールと共同)
- 特許第 7378058 号 マンガン及びニッケルの分離方法(国立大学法人東北大学と共同)
- 特許第 7565543 号 ケエン酸マンガンの製造方法(国立大学法人東北大学と共同)
- 実用新案登録第 3222429 号 乾燥箱

■登録商標

登録商標	区分	商標登録番号
 恵和興業株式会社	7、37、39、40、42	登録第 6072739 号
 KEIWA	7、37、39、40、42	登録第 6072738 号
ゼロエミプラント	37、39、40	登録第 6072737 号

指定商品又は指定役務並びに商品及び役務の区分

- | | |
|--|---|
| 第 7 類 熱電併給装置, 木質バイオマス熱電併給装置 | 第 40 類 建設系混合廃棄物・木質系廃棄物・可燃性混合物・不燃性混合物・廃石膏ボードその他の産業廃棄物の収集・分別・処分・再資源化処理, 光学レンズからのレアメタル回収, 放射線・放射能の除染 |
| 第 37 類 産業廃棄物の処理・再資源化施設の建設工事及び修理に関する助言, 産業廃棄物の処理・再資源化施設の運転・修理・保守またはこれらの管理, 土木工事・建築工事・建設工事・解体工事の施工管理またはコンサルティング, 浄化槽の管理または保守 | 第 42 類 土木工事・建築工事・建設工事・解体工事の設計及び設計に関する助言, 廃棄物処理施設の設計及び設計に関する助言, 放射線量の測定 |
| 第 39 類 建設系混合廃棄物・木質系廃棄物・可燃性混合物・不燃性混合物・廃石膏ボードその他の産業廃棄物の運搬 | |

■製品認定



宮城県グリーン製品認定

「造粒再生砕石 RC-40」(認定期間: 令和 6 年 10 月 1 日から令和 9 年 9 月 30 日まで)



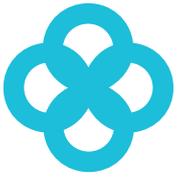
うつくしま、エコリサイクル製品認定

「造粒石」(認定期間: 令和 5 年 10 月 1 日から令和 8 年 9 月 30 日まで)

■エコアクション 21



恵和興業株式会社及びケイワ・エコグリーン株式会社は、環境経営の取り組みとして 2023 年 1 月にエコアクション 21 の認証を取得しました。



建設系廃棄物中間処理
造粒再生碎石製造販売

KEIWA

www.keiwa.be
